

硝子織維協会会長賞

主催：一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構



komorebi no ie
木漏れ日の家

「木漏れ日の家」は、一日の始まりに朝日を眺め、そして一日の終わりには夕日を眺める。そんな自然のリズムと共に暮らした住まいである。南からの直接的な明るさが期待できない敷地条件の中、外部への開口部は最小限に抑えつつも効果的に配することで、敷地周辺の緑に包まれている感覚を演出し天窓とその光を受ける壁の効果的なバランスによる明暗の対比が心理的に明るさを意識するきっかけとなり光に包まれた「木漏れ日」のような空間を表現している。水や緑を感じる豊かな自然に包まれた環境で人と自然がより調和するようにそれらを繋ぐ建築の姿を目指したこの住宅は「時の移ろい」と「景色」という自然のリズムを享受する。また建物の高さを抑える事でまれる外部環境と適切なスケール感が周囲との同調をもたらし良好な関係性が見いだされるような建築のありかたを期待した。また内部においては「仕切り」や「レベル差」などのしつらえやゆとりとした光の移ろい、種やかな風の流れ、生活の中で肌に触れるあらゆる素材の質感に至るまで丁寧にデザインすることでシンプルな空間の中にも確かな温もりがあり、心が安らぐ空間となっています。1階は天井高を抑えたスペースで構成し開口部も限定しているがそれは敢て光を包まれた上階へと誘う事を意識させている。スキップフロアで繋がる東西に展開するリビング・ダイニングは連続する一つの空間であり、刻一刻変化する日照条件の伴い、その時に心地よい場所へと自ら移動し光と美しい眺望を享受すべく計画している。このように部屋の用途を限定せず、心地よい場所に居場所を設けることで生活にならなゆとりをもたせられる事を期待した。

